# 主要年表

| | |
|---|---|
| 久寿2年<br>（1155） | 後白河天皇（鳥羽天皇の第四皇子）が異母弟・近衛天皇の急死により、第77代天皇に即位。 |
| 保元元年<br>（1156） | 「保元の乱」（朝廷の内部抗争…信西派と二条親政派）<br>平清盛が、後白河天皇側について勝利し、播磨守・大宰大弐となる。 |
| 保元3年<br>（1158） | 後白河天皇が第一皇子の二条天皇に譲位し、上皇として院政をしく。<br>→ 建久3年（1192）3月、崩御 |
| 平治元年<br>（1159） | 「平治の乱」（後白河院政派と二条親政派の対立による政変）<br>源義朝父子が三条殿を焼討ちし、後白河上皇と二条天皇を幽閉するが、義朝軍は六条河原で平清盛軍に敗れ、義朝は敗走中に謀殺されたほか、長男の義平は捕えられて処刑され、次男・朝長も敗走中に死亡、3男・頼朝は伊豆国へと流刑となる。 勝利した平清盛は朝廷を掌握する。 |
| 長寛元年<br>（1163） | 北条義時が誕生（父＝時政、母＝伊東祐親の娘。兄＝宗時、姉＝政子） |
| 長寛2年<br>（1164） | 平清盛は、厳島神社に『平家納経』を奉納し、後白河上皇のために蓮華王院（三十三間堂）を造営する。 |
| 永万元年<br>（1165） | 二条天皇が崩御し、六条天皇（二条天皇の第2皇子）が第79代天皇に。 |
| 仁安3年<br>（1168） | 六条天皇が退位し、高倉天皇（後白河天皇の第7皇子）が第80代天皇に。<br>→治承4年（1180）、安徳天皇に譲位し、同年2月、病死<br>清盛は、病に倒れ出家するが、回復後、福原に別荘を建立して移住。 |
| 仁安4年<br>（1169） | 清盛、福原に後白河上皇を迎えて千僧供養を修じる。<br>後白河上皇が出家して、法皇に。 |
| 承安元年<br>（1171） | 清盛の娘・徳子（建礼門院）が高倉天皇の中宮として入内。<br>この頃、”平家の一門にあらざれば人非人たるべし”（平時忠が放言） |
| 承安4年 | 義経が鞍馬寺を出奔し、奥州・藤原秀衡の庇護を受ける。…安宅の関 |
| 安元元年<br>（1175） | 上洛していた伊東祐親は、留守中に源頼朝が娘・八重と恋仲となって千鶴丸を生ませたことに激怒し、頼朝を婿（八重の姉の夫）の北条時政に預けて監視役とする。 … 大河ドラマはこの場面から始まる。<br>千鶴丸は殺害され、八重はのち祐親の家人・江間次郎と再婚。 |
| 安元2年<br>（1176） | 源頼朝と北条政子が結婚<br>→治承2年（1179）、長女・大姫が誕生 |
| 安元3年 | 後白河の寵愛する建春門院が死亡し、後白河と清盛の関係に暗雲が。 |
| 治承3年 | 平清盛、クーデターを起こし後白河法皇を幽閉（治承3年の政変） |
| 治承4年<br>（1180） | 安徳天皇（高倉天皇の第1皇子。母＝平清盛・娘の建礼門院」）が第81代天皇に（3歳）。 → 寿永4年（1185）、壇ノ浦の戦い（源平合戦）で入水自害。<br>「治承・寿永の乱」（源平合戦）<br>・以仁王が平家追討の令旨を発し（4月）、源行家が全国の源氏に呼びかけ。<br>→企てを察知した平家軍（平知盛）が、以仁王らを襲撃して殺害。<br>・平清盛、福原に遷都（6月） → 京へ再遷都（11月） |

| | |
|---|---|
| 治承4年<br>（1180） | ・源頼朝が伊豆で平家追討のため挙兵（8月）<br>→頼朝は、”石橋山の戦い（相模）”で平家方の大庭景親軍に敗れるが、<br>真鶴から安房国へ脱出し、軍勢を整えて鎌倉に入る。…土肥実平が先導<br>北条時政・宗時・義時父子も挙兵に応じるも、宗時は戦死、時政と義時は<br>戦後、甲斐源氏のもとで行動を共にする。<br>（この時、伊東祐親は大庭景親軍として参戦）<br>・平清盛が頼朝追討の宣旨を発し、平維盛軍を東国に送ったのに対し、源<br>頼朝軍は鎌倉を発して迎撃ち、”富士川の戦い”で平家軍を破る。（10月）<br>北条時政・義時父子も参戦し、頼朝軍と合流する。<br>（伊東祐親（平家方）は捕らわれてのち自害）<br>→黄瀬川の陣で奥州・藤原秀衡の許に居た義経が合流し頼朝と対面。<br>・源（木曽）義仲も信濃で挙兵し、京へ向かう。（9月）<br>・頼朝が京に入り、清盛は後白河法皇の幽閉を解く（12月） |
| 治承5年 | ・平清盛が熱病を罹って死亡。3男・宗盛が跡を継ぐ。（2月） |
| 寿永2年<br>（1183） | ・頼朝に追われた行家を囲ったことで頼朝との仲が悪化した木曽義仲は、<br>嫡男・義高を人質（大姫の婿）として頼朝の下に送る（2月）<br>・木曾義仲が、平維盛が率いる平家の大軍を”倶利伽羅峠（越中）の戦い”<br>で破り、京に入る。（7月）<br>→平家一門は安徳天皇・三種の神器を伴って都落ちする<br>→比叡山に身を隠していた後白河法皇は都に戻り、後鳥羽天皇を即位<br>させるが、頼朝の上洛を促したことに抗議する義仲に幽閉される。 |
| 寿永3年<br>（1184）<br>～ | ・頼朝の上洛を促す後白河法皇の要請に応えて京に向った義経・範頼軍<br>が、”宇治川の戦い”で義仲軍を破り、義仲は近江粟津で討たれる。（1月）<br>（鎌倉に居た義高は、女房に扮して逃走するも追手に討たれる。）<br>・義経・範頼軍は京から平家追討に向って、”一ノ谷の戦い”（鵯[ヒヨドリ]越え）<br>で勝利し、さらに”屋島の戦い”（那須与一）で平家軍を海上に追いやったあ<br>と、元暦2年（1185）3月の”壇ノ浦の戦い”で平家を滅亡させた。<br>→安徳天皇、平知盛、建礼門院らが入水自害<br>・義経は平宗盛らを護送して東国へ下るも鎌倉入りを許されず。（5月）<br>→後白河法皇から義経追討の院宣が出され、吉野で静御前を捕らえられ<br>窮地にたった義経は、文治3年(1187)、藤原秀衡を頼って奥州へ身を寄<br>せるも、秀衡が亡くなり、文治5年(1189)、跡継ぎの泰衡に討たれる。 |
| 文治3年<br>（1187） | 頼朝は、鎌倉政権を安定させるため奥州征伐に向い、藤原泰衡は郎従の<br>裏切りにより討たれ、その首が晒された。（9月） |
| 建久3年<br>（1192） | 後白河法皇が体調を崩し、崩御する（3月）<br>頼朝が征夷大将軍に任命され、鎌倉幕府が成立する。（7月）<br>義時、比企朝宗の娘・姫の前を正室とする。→翌年、嫡男・朝時が誕生 |
| 建久4年<br>（1193） | 頼朝が催した富士の巻狩りで、伊東祐親の孫である曽我祐成・時致の兄弟<br>が父（河津祐泰）を暗殺した工藤祐経を討ち取る。（曾我兄弟の仇討ち） |
| 建久6年<br>（1195） | 頼朝が娘・大姫を入内させるべく上洛するが、不調に。<br>（大姫は、建久8年、20才で死去）） |

| | |
|---|---|
| 建久10年<br>（1199） | 源頼朝が死去し、長男・頼家（18才）が鎌倉幕府を継ぐ。（1月）<br>→「十三人の合議制」をしく。　（頼家＝建仁２年[1202]に征夷大将軍に） |
| 正治２年<br>（1200） | その発言から、侍所別当の梶原景時に”謀反の意あり”とされた御家人が他の御家人に呼びかけて、景時糾弾の連判状（66人）を頼家に差出す。<br>鎌倉追放となった景時は、京に向う途中で襲撃され父子共討取られる。 |
| 建仁３年<br>（1203） | ・阿野全成（頼朝の弟で実衣の夫）が謀反のとがで誅殺される。（6月）<br>・頼家が病床に伏し危篤状態に（8月）<br>→家督相続を巡り、頼家の側室・若狭局（嫡子・一幡の母）の父である比企能員（１３人の一人）と北条時政が対立し、頼家が比企に時政追討を命じるが、政子からこれを聞いた時政が、先手を打って比企を殺す。<br>・この事件を機に、頼家は追放され、実朝（12才）が鎌倉幕府第３代将軍に就く。 頼家は修禅寺に護送され、翌年７月、北条氏の手兵に殺害される。<br>・北条時政が初代執権(政所別当)に就任。（10月） |
| 元久２年<br>（1205） | ・北条時政の謀略により、畠山重忠が一族とともに滅亡する。（6月）<br>・北条政子・北条義時の謀略により、北条時政・牧の方らが追放され、義時が第２代執権に就任。（閏7月） … 牧の方が時政と共謀して、将軍・実朝を殺害し娘婿を新将軍に擁することを計画したとするもの。<br>→時政は建保３年（1215）１月、腫物のため伊豆で死去。（78才） |
| 建暦３年<br>（1213） | 義時に恥辱を受けた和田義盛（１３人の一人）が一族とともに挙兵し、討死<br>→義時が、政所別当と侍所別当を兼帯する。 |
| 建保７年<br>（1219） | ・源実朝が頼家の子・公暁に鶴岡八幡宮で暗殺される。（1月）<br>・阿野全成の子・時元が謀反を企てるも、北条義時らに鎮圧される。（2月） |
| 承久３年<br>（1221） | 「承久の乱」<br>・武家政権打倒を目指す後鳥羽上皇は、将軍継嗣問題を機に、義時追討の官宣旨を発し、挙兵。これに対し、鎌倉方は政子の声明により、義時を中心に結集し、東海道、東山道、北陸道の三方から京へ進軍する（5月）。<br>・朝廷方は宇治川の橋を落とし、最後の防戦を行うも、幕府軍は6月１５日に京を制圧し、後鳥羽上皇を隠岐島、順徳上皇を佐渡に配流、討幕計画に反対していた土御門上皇は自ら望んで土佐国へ配流となった。 |
| 元仁元年<br>（1224） | 北条義時が京で急死（6月）…衝心脚気の説<br>→　北条泰時（長男）が3代執権に就任 |
| 嘉禄元年<br>（1225） | 北条政子が6月に病の床に付き、7月１１日死去。 |